

## 続いて、第2の柱

『ふるさとを愛する豊かな心づくり』についてであります。

本市のもつ豊かな自然や歴史・文化、そして多くの地域資源について、市民の皆さまが誇りと愛着を持てるよう、地域と連携し、学校教育・社会教育を推進してまいります。

教育の魅力化につきましては、「大田市教育ビジョン基本計画」後期計画を基本として、子どもたちが持続可能な地域づくりの担い手となるよう、地域の子どもの地域全体で育てる教育を推進してまいります。

そのため、今後2か年で市内すべての小中学校に「学校運営協議会」を組織し、「地域とともにある学校づくり」の取り組みを進めてまいります。

また、市内の高校での「高校魅力化コンソーシアム」の設立により、地域との協働体制の強化が期待されますので、この機会に就学前から高校までのふるさと教育、キャリア教育等を一貫した体制により推進し、子どもたちの学びを切れ目なく支える仕組みを整えてまいります。

学力向上につきましては、就学前から、読書やふるさと教育を通じた豊かな体験に触れる機会を創出し、子どもたちの、自分だけでなく他の人も大切に感じる感覚や豊かな感性、学ぶ意欲の醸成を図るとともに、基礎学力の向上へとつなげてまいります。

教職員の働き方改革につきましては、教職員が例年以上に多忙となっておりますので、部活動指導員やスクールサポートスタッフの配置等で支え、授業づくりに専念できる時間、児童・生徒と向き合える時間を確保できるよう努めてまいります。

教育機会につきましては、福祉、子育て、教育分野の垣根を超えた相談支援チームによる個別相談や、支援員・介助員の配置により、特別な支援が必要な児童・生

徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援を行ってまいります。

また、日本語指導が必要な児童・生徒につきましては、日本語指導講師等を派遣するなど、安心して授業に参加できる環境づくりを進めてまいります。

いじめや不登校等の課題を抱える児童・生徒に対しては、課題の早期発見に努め、スクールソーシャルワーカーや適応指導教室等の取り組みを通じて、一人ひとりを大切にす教育を推進してまいります。

教育環境につきましては、「幼児期通級指導教室」が、早期からの個別指導により就学時の安心感につながっているなど、効果が出てきていることから、大田幼稚園への移転にあわせ、支援体制を強化してまいります。

社会教育につきましては、従来の公民館とまちづくりセンターの役割や体制を見直し、地域住民の主体的な活動を行政部門と教育部門が一体となって支援することとしております。

そのため、市内7ブロックの公民館を、令和4年度に一元拠点化することとし、新年度は、この拠点立ち上げのための準備期間として、業務内容の整理や人員体制を検討、決定してまいります。

図書館につきましては、中央図書館の空調工事が終了し、照明取替、回廊の改修といった工事に取り組むこととしております。子どもたちをはじめ、多くの市民の皆さまに広くご利用いただけるよう、環境を整えてまいります。

世界遺産、日本遺産につきましては、大田市を代表する貴重な歴史・文化資源であります。この貴重な資源の適切な保存と活用を通じて、魅力と活力のある地域づくりを進めてまいります。新年度は、その基本となる「大田市文化財保存活用地域計画」、「琴ヶ浜保存活用計画」を策定いたします。

石見銀山遺跡につきましては、銀生産の様子が明らかになった大谷地区の調査を

進めるとともに、石見銀山学習プログラムの見直しや、石見銀山学概説書の刊行、解説案内版の多言語整備などにより、国内外の多くの人々が世界遺産としての価値を認識し、理解を深めていただける取り組みを進めてまいります。

芸術文化活動につきましては、直木賞作家である難波利三先生の功績を顕彰するとともに、子どもたちに書くことの喜びや自分を表現することの大切さを感じてもらえるよう、市内小中学生を対象とした「ふるさと　そして　未来」作文コンクールを開催してまいります。

スポーツ活動につきましては、「第2期大田市スポーツ推進計画」後期計画を策定いたします。大田市体育協会や各種スポーツ団体と連携し、スポーツ推進委員が地域で活躍できる環境づくりや、スポーツ指導者の育成にいつそう努めてまいります。

山村留学につきましては、修園生の中に、島根県内の高校や大学への進学、市内で就職し家庭を持つ人もあるなど、定住にも貢献する本市の特徴的な取り組みとして定着しております。本市の魅力ある自然や文化を活かした多様な体験活動が、着実に子どもたちの「生き抜く力」の形成につながっていると実感しており、新年度も長期留学を中心に積極的に取り組んでまいります。